



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1121 / 2012. 10. 12

例 会/ANA インターコンネクトホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目 アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

http://www.akasakarotary.com/

東京赤坂ロータリークラブ週報 Weekly Report

2012～2013 年度クラブテーマ
会長 尾関 武男

「僅かなことにも手を差し伸べよう、そして信頼と絆」
Give a hand to even to the small things. Build trust and bonds.

●本日の例会/ 2012 年 10 月 12 日 第 1228 回

RI2750 地区 佐久間ガバナー公式訪問

卓 話: 「ガバナー卓話」

RI2750 地区ガバナー 佐久間 崇源 氏
(東京目黒 RC)

ガバナー・会長・幹事・会長エレクト懇談会
11:20 ~ 12:10

国際ロータリー第 2750 地区
2012-13 年度 ガバナー
佐久間 崇源 氏
(Sakuma Takamoto)



プロフィール

生年月日 : 1940 年 3 月 30 日
学歴 : 明治大学文学部
職歴 : 1963 年(株)トヨフク入社
1969 年(株)トヨフク
代表取締役社長就任
現在に至る

ロータリー歴

1977 年 1 月 東京目黒 RC 入会
1985～86 年 同クラブ幹事
1989～90 年 山の手分区幹事
1989～91 年 東京駒場・青山 RC 拡大補佐
1994～95 年 地区インターアクト委員長
1995～96 年 東京目黒 RC 会長
1996～97 年 地区新世代委員長
1997～98 年 地区日韓親善交流委員長
1998～99 年 地区日韓親善委員長
1999～00 年 地区副幹事
2003～04 年 地区国際親善委員長
2004～05 年 山の手 BG、ガバナー補佐
2006～07 年 地区奉プロジェクト委員長
2007～08 年 地区新世代プログラム委員長
2008～09 年 東京目黒 RC 会長 (2 回目)
2009～10 年 地区新世代部門委員長

ポール・ハリス・フェロー (マルチプル)、
ベネファクター、
米山功労者 (マルチプル)

●前回報告/2012 年 10 月 5 日 第 1227 回例会

卓 話: 「日本の森林を元気にする」

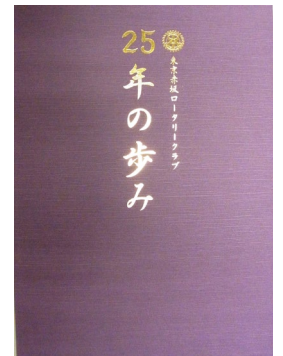
一般社団法人 フォレストック協会

副理事長 小林 正明 氏



25 周年実行委員会 (橋本副委員長)

25 周年記念誌が出来あがりました。本日、高須前年度会長・大日方 25 周年実行委員長の挨拶状とともに皆さんにお配りいたしました。この記念誌は吉岡年度で企画・高須年度で作成・尾関年度で完成配布と成ったものであり会員全員の情熱が籠っております。思い出多い 5 年が凝縮しておりますのでご覧いただき大切に保管頂きたいです。ご協力有難うございました。



社会奉仕委員会: (橋本副委員長)

10 月 6 日から 7 日に芝増上寺境内で「港区民祭り」が芝 RC 主催で行われます。東京赤坂ロータリークラブではブースに震災復興のパネルを展示致します。6 日は尾関会長・社会奉仕委員会の橋本委員長・村山地域調査リーダー・入沢環境保全リーダーが参加、7 日は社会奉仕委員会の橋本委員長・吉岡副委員長・高須副委員長が参加致しましてパネルの説明とロータリークイズの担当等で汗をかく事と成っております。皆さんも足をお運びください。

幹事報告

(1)10 月 12 日 (金) 佐久間ガバナーの公式訪問です。皆様のご出席をお願いいたします。
(2)東京みなと RC のホストとして開催される千代田グループ IM「復興支援を語り合う夕べ」につきまして、当クラブからは、尾関会長、幹事、西澤会長エレクト、橋本社会奉仕委員長、吉岡社会奉仕副委員長、高須社会奉仕副委員長が参加することになりました。よろしくお願い申し上げます。

慶事披露：100%出席

西澤民夫 君（10 年）



出席報告：会員 40 名／出席 21 名・欠席 19 名

ゲスト：小林正明（卓話）、吉田賢治

ビジター：岸田洋美（東広島 21RC）、榎本長治（田辺 RC）
宮坂秀樹（浦和北東 RC） 計 5 名（順不同・敬称略）

10 月火曜会

日時：10 月 2 日（火）18:30～20:30

場所：36F MIXX バー＆ラウンジ

テーマ：「混迷する政局を斬る」

政治評論家 森田 実氏

今回の火曜界はゲストに政治評論家の森田実先生をお迎えし、開催されました。ジャーナリストとして長年に渡り政局を鋭い目で分析されたお話は、引き込まれるように出席者は聞き入りました。現在政局も大きな変わり目で、今後の動向がとても気になりますが、表向きの情報しか知らなかった場合の予測と、実際に歴代の政治家とご交流され、熟知された森田先生のお話を聞いたあとでは、予測が変わった方も多かったと思います。今後の政治について、先生の「正直な政治家が必要」というお言葉がとても印象的でした。貴重なお話のあとには、数多くの質問が飛び交い、その質問に丁寧にお応えくださった森田先生に深く感謝いたします。（藤井記）



出席者：尾関、村山、竹本、吉田、石井、橋本、尾上、清水、西澤、秋吉、岩上、河邊、藤井、小原 計 14 名（敬称略）



●次回予告/ 2012 年 10 月 19 日（金）第 1229 例会
卓話：「ロータリーの環境保全について」
RI 第 2750 地区 社会奉仕委員会
副委員長 木村 眞 氏（東京恵比須 RC）

10 月理事会議事録

日時：2012 年 10 月 5 日（金）例会後 13:40～15:00

場所：ANA インターコンチネンタルホテル東京 1F 「かすみ」

出席者：尾関、高須、西澤、飯島、尾上、石井、村山、岩上、田村、橋本 計 10 名（敬称略）

1. 2013-14 年度理事役員候補者は以下の通り承認。

会長ノミニー	石井謙次
会長	西澤民夫（決定済）
幹事（役員）	田村昭二
会計（役員）	松本 智
副会長（役員）	橋本年男
理事（奉仕）	尾上 寛
理事（会員増強）	岡澤 実
理事（親睦活動）	小林博茂
理事（R 財団）	大日方真
理事（広報）	佐藤 仁（敬称略）

2. 東京米山ロータリー E クラブ加盟認証伝達式典は、会長幹事の出席を見送ることとする。

3. 千代田グループの IM「復興支援を語り合うタベ」へは、会長、幹事、橋本、吉岡、高須、西澤（敬称略）の 6 名とすることを承認。登録料 8,000 円は個人負担とする。

4. 大日方会員のロータリー・リーダーシップ研究会（RLI）実行委員会副委員長の就任を承認。

5. 東日本大震災復興支援「陸前高田運動場整備」について地区支援金の申請及び、当クラブからの拠出額 250,000 円について承認。

6. 11 月 30 日麻布 RC との合同例会を開催することを承認。

7. 2 月ガバナー月信の原稿は、第一候補：公山城 RC とのマッチンググラントについて、第 2 候補：陸前高田運動場整備についてとする。

8. RI 表彰・地区表彰について検討する。

9. 青少年交換学生「小さな親善大使」の卓話依頼はプログラム委員会へ一任。

10. 卓話について次の通り承認。10 月 19 日 RI2750 地区社会奉仕委員会副委員長 木村眞氏（東京恵比須 RC）「ロータリー活動の環境保全について」、10 月 26 日 一心グループ会長 真田惣行氏（福山赤坂 RC）。



10 月 5 日（金） / 8 件 16,000 円

累計 317,000 円

多額の寄付を有難うございました。

尾関武男/本日、小林様卓話、よろしくお願いします。
西澤民夫/小林さん、本日の卓話楽しみにしています。
田村昭二/今週は昨日まで沖縄に行ってきました。飛んでるオスプレイも見ました。秋吉志郎/火曜会大変楽しかったです。ありがとうございました。石井謙次/土屋さんに見られて、佐藤さんニコニコご苦労様です。川邊幸夫/今日も病院のため、途中で退席してしまいます。すみません。土屋東一/佐藤さん、ニコニコご苦労様です。佐藤仁/関さんの代わりに受付していました。小林様、森林の卓話楽しみにしています。

第3回クラブ協議会「奉仕プロジェクトについて」

日時：2012年9月28日(金)13:10～14:30

場所：ANA インターコンチネンタルホテル東京 B1 プリズム

出席者：浅川ガバナー補佐、尾関、清水、飯島、橋本、田村、西澤、松本、高須、吉岡、大日方、入沢、岩上、石井、小林、佐藤、村山、秋吉、穂苅、島本、開発

計 21 名（敬称略）



1. 会長挨拶：尾関会長

今日はガバナー補佐の浅川様にご出席くださり、クラブ協議会を開催させていただきます。本日のテーマを「奉仕プロジェクトについて」といたしましたのは、RI 会長の田中作治氏のテーマが「奉仕を通じて平和を」ということで、ロータリーの活動の基本は奉仕であると思っております。我クラブのテーマは「僅かなことにも手を差し伸べよう、そして信頼と絆」と掲げております。やはりロータリーは、暖かい手を差しのべていく集まりだと思っております。本日は、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の3つの奉仕について各委員長より話していただきます。社会奉仕委員会で行なっている東日本大震災復興の支援は、長い時間かかると思いますし、本年度も続けていくつもりであります。初めての試みではありますが、姉妹クラブであります公山城 RC とのマッチンググラントについても進行中でございます。奉仕には、長期にわたる奉仕、短期の奉仕さまざまな奉仕の仕方があるかと思えます。本日は、皆様のご意見を伺い、これからの指針としていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。

2. 浅川ガバナー補佐挨拶

ご紹介いただきました浅川でございます。本日はよろしくお願い申し上げます。本日のテーマが「奉仕プロジェクトについて」ということで、ガバナーがお考えになる奉仕について申し上げます。



ガバナーがおっしゃるには、奉仕活動には2通りあり、自ら身をもって達成するものと、お金というような R 財団や米山という形がある。両方大事ではあるが、お金という部分においても強調しております。また、31年ぶりに日本人の田中作治氏が RI 会長になられて、私達が何をして差し上げられるかという、1つは会員増強であり、もう1つが財団の基盤を強化することだともおっしゃっております。

赤坂 RC の奉仕活動というと、身を投じての奉仕活動というイメージがございます。今日のクラブ協議会は、お金というよりも、赤坂 RC の奉仕活動についてお話しが聞けるのかと楽しみにしております。よろしくお願い申し上げます。

3. 当クラブ奉仕プロジェクトについて

田村奉仕プロジェクト委員長：当クラブは、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会とあり、社会奉仕委員会の下には、地域社会調査、環境保全、新世代と3つの奉仕委員会があります。ロータリーでは5大奉仕委員会といわれていますが、奉仕活動という社会奉仕会が中心となって活動しております。本日は、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の3つの奉仕で話をすすめていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。

(1) ①社会奉仕委員会：橋本社会奉仕委員長

委員会構成の説明と活動方針の説明をいたします。副委員長として吉岡さん、高須さん、12名の委員で構成しております。担当委員会を設けており、1. 特命・継続事項担当のリーダーとして吉岡さん、サブリーダーとして高須さん、2. 地域社会調査担当のリーダーとして村山さん、サブリーダーとして関さん、3. 環境保全担当のリーダーとして入沢さん、サブリーダーとして朴さん、4. 新世代担当のリーダーとして藤井さん、サブリーダーとして穂苅さんとなっております。活動方針としては、(1) 2012～2013年度の RI テーマは「奉仕を通じて平和を」です。この理念を最大限理解して社会奉仕活動を実施する。すなわち、この平和の理解は自分の身の周りの姿を平和ととらえて奉仕活動を進めることを考えている。(2) 当クラブの戦略計画では5つの価値観と3つの優先事項を打ち出しているが、この中の「クラブ強化」は成果ある奉仕活動を実施する事によってクラブの活性化が図れる事と認識する。(3) 戦略計画では人道的奉仕の重点化と増加がある。東日本大震災復興支援は人道奉仕の一環として特命的に取り組む事項と考えおり、継続的な奉仕と考えている。(4) 手続要覧の社会奉仕の定義を理解すること。これは社会奉仕の原点をよく理解することにあります。(5) 特命的なプロジェクトを推進①東日本復興支援を継続 ②継続プロジェクトの維持 ③継続事項の委譲と新プロジェクトへのチャレンジ (6) 地区クラブ支援社会奉仕委員会にアドバイスを頂く。次に活動計画についてお話しいたします。前年度から引き続き東日本復興を継続的に支援については、後ほど吉岡副委員長、高須副委員長にお話いただきたいと思います。尾関年度では、橋本社会奉仕委員長、吉岡特命・継続事項担当リーダー、高須特命・継続事項担当サブリーダーが RI 第2520地区陸前高田 RC と打合せし「中学生向け運動場の整備」を中学生の危険防止と被災地青少年育成を考え進める事としました。(予算500,000円内、当クラブ負担250,000円) 詳しく説明いたしますと、陸前高田市第一中学校運動場は、現在、仮設住宅ならびに駐車場として使用せざるを得ず、第一中学校の生徒は通路等で運動集会しており、大変危険な状態にあるため、隣接地に運動場、集会場を設置するこ

とになりました。人道的な見地からですと被災地の青少年育成に役立つ事と合わせて、その家族や地域の人々に安心と希望を与えるとしております。実施期間は、11月1日～12月31日までとしております。広報活動としては、東京赤坂ロータリークラブのホームページに活動状況を掲載したり、完成の際に岩手県地元新聞社（岩手日報、東海新報等）に取材していただき、新聞等で報道してもらおうと考えております。その他の継続的な活動としては、障害者団体、風の子会・泉の家に寄附を行う。風の子会で実施する「障害者と外へ出よう」活動に参加する。みなと区民まつりに参加[寄附を実施（30,000円）、芝RCブースに被災復興パネルを掲載、委員会委員がパネル説明者として参加する]。忘年家族会でチャリティーバザーを実施する（当クラブ会員全員参加で収益金目標120,000円、収益金は風の子会・泉の家へ寄附）。地域社会調査委員会としては、25周年記念事業でも検討対象であった「港区のお母さん」とのパネルディスカッションを実施し困っている事を引き出す。これには港区議員の清家氏に参加していただく。地域調査方法を検討し、地域ニーズを引き出し反映させる。環境保全については、入沢リーダー、新世代については穂苅リーダーに後ほどお話いただきたいと思ひます。以上でございます。

②職業奉仕委員会：田村職業奉仕委員長

職業奉仕については勉強しておりますが、難しくなかなか答えが見い出せないでいます。4月の上旬に地区の研修会で言われたことは、職業奉仕は職業倫理に基づき顧客満足を目指して、自らの職業を営むこと。職業奉仕の実践は、自らの職業を繁栄に導き、職業を通じて社会に奉仕することに繋がる、ということでした。サラリーマンロータリアンとして10年たちますが、ロータリーに入って一番初めに感動したのが4つのテストです。普段仕事をしていて、四つのテストに照らし合わせてみると、喋れなくなってしまうのではないかと思います。まず「真実かどうか」嘘を言っていないか、となるとビジネスをやっていると嘘も方便ということもあるのではないかと思います。皆に公平かとなると、ビジネスに関わる中でそれもまた難しく、はっと気付かされるときがある。会社のなかでは、職業奉仕と近いと思うのですが、近江商人の三方よしという精神があり「売り手よし、買い手よし、世間よし」というのがあります。これは、皆に公平かというのが表されていると思う。好意と友情を深めるというのは、企業の信用・信頼だと思う。みんなのためになるか、というのは職業倫理の目標が皆のためになるということだと思います。職業奉仕は日本人的な奉仕ではないかと思うことが多々あります。私どもの会社は、情報システムを企業に納める仕事をしています。大阪には古い企業がたくさんあり、創立250年の会社などがあり成長しています。日本には100年を超える会社が2万2千ほどあるそうですが、海外にはほとんど無いそうです。これは、日本に職業奉仕という論理が備わっているのではないかと思います。企業がどのように成長するかは、先人がやった経営理念などの言葉を守り続けることが、企業が成長し継続し続けることだと思う。職業奉仕の理念で活動し利益を得て、社会へ戻すということを考えると全て足し算だと思う。足し算というのは、100年間の利益を足していけるようになるかという

ことで、1年間の力ではなく、何年もの力だということです。今の企業環境では、目先目先で数字をつくらなくてはいけないという苦しさがある。サラリーマン社長をしている人は、自分の時代に利益をだそうとすると行く方向を間違ってしまう、コンプライアンスに反することがおこり、職業奉仕の倫理にかなっていないことが起こってしまいます。こういったことから、常に職業奉仕を照らし合わせ、考えながら色々なことを気付いていくことが大切だと思っています。西澤会長エレクトが主催している若き経営者が集うローマの市場というのがあります。そこで、経験者が若い人の話を聞いて議論することが出来たらいいな、と思っております。

③国際奉仕委員会：松本委員長

国際奉仕委員会としては、7月以降でいうと、ポリオの関係のサロマ湖の100キロマラソンを完走したら寄附をするということを皆様の協力で行いました。ポリオ関係でいうと、麻布RCの清原さんが卓話にきてくださり、ためになる話を聞きました。大きなプロジェクトとしてできたのが、韓国公山城RCとのマッチンググラントで今、申請中です。内容ですが、韓国の障害者施設、老人療養施設に対する支援です。プロジェクト名にもありますが、疎外階層のための奉仕活動ということで、疎外階層とは政府等の支援のない中小施設のことを言い、そういった施設においては、多くの洗濯物が出る割には、洗濯機が少なく、衛生上の問題になっているそうです。衛生的な環境で過ごせるようにということで、洗濯機を提供しようということです。大きい洗濯機15kg用87台で、総額39,750ドルということです。ホストパートナーが公山城RCで、国際パートナーが赤坂RCということになります。なぜこのプロジェクトをやるのかということですが、公山城RCとは2011年2月に姉妹クラブになりましたので、象徴的なプロジェクトを行いたいということもあります。現在の状況は、R財団に提出する韓国版、日本語版の申請書に、日本側の地区R財団委員長のサイン、ガバナーのサインをいただくよう手続きをとっており、サインがいただければ公山城RCへ送るという手配となります。10月の中旬くらいには、公山城RCへ送れると思います。今後は、100ドル募金などもありますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。



(2) 自由討議

田村委員長:まず、社会奉仕委員会での活動を整理していきたいと思います。それでは、特命・維持事項で、東日本復興の継続事項のお話を吉岡さんより伺いたいと思います。よろしくお願いします。

吉岡リーダー:私どもは、震災後6月に現地を訪問しました。そのときに、水沢東 RC の会長、幹事、パストガバナーらとお会いしました。私たちが協力できることといっても、その地区では、ロータリー事務局も流され、お亡くなりになった会員の方もいるという状態ですから、まずは、できるだけ要望を聞き、それを東京に持ってかえり、長い時間をかけて協力をしようということになりました。公山城 RC からのマスクや、クラブでも義援金を集めて現地へお送りいたしました。2年たっても復興がままならない状態です。私どものクラブだけの問題ではなく、ロータリー全体の問題だと思いますが、地道に確実に続けなければならないことだと思います。私共社会奉仕委員会は力を入れて行っておりまして、一本松の松苗木のバックアップなどを吉岡年度でも行いましたが、次の高須年度でも継続しております。現地からは、まだまだ基金的には足りないという報告がありますが、私共クラブだけではなく、地区の協力も得て続けていきたいと思っております。

高須サブリーダー:東日本大震災は大変広範囲な被害でありましたが、私どもと水沢東 RC との縁というのは、震災があつてすぐに、公山城 RC から支援物資としてマスクが届きまして、それを水沢東 RC へ送ったことから始まります。縁があつた先で当クラブとして何かできないかという観点で、現地で何が必要なのかというニーズを知るためもあり、吉岡年度のときに視察されました。高須年度は、クラブ創立25周年でありまして、何が大事かということで話し合いをした結果、震災復興支援をしましょう、ということになりました。そしてプロジェクトとして陸前高田市に「市民憩いの公園」・「集会所」・「松苗木第二捕植場」の建設を行う事になりました。私共のクラブでは力が足りなかったことから、このお話を東京南 RC、東京西 RC、東京中央 RC、東京中央新 RC にも協力をお願いをしたところ、合同プロジェクトということで実行することができました。現会長の尾関さんが当時社会奉仕委員長でありまして、人脈もあり、良いプロジェクトが出来たと思っております。5月13日落成贈呈式を行いました。現地の方が喜んでくださいました。復興支援は、まだまだございますが、クラブだけで支援するのは不可能だと思いますので、何かきっかけ作りができればと思っております。尾関年度にも活かしていければと思っております。

入沢リーダー:活動目標に3つあります。1つ目は、10月19日に地区社会奉仕委員会の木村副委員長が「ロータリー活動の環境保全について」ということで卓話をしてくださります。2つ目は、日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語の港区防災マップの最新の情報でリニューアルを検討しています。長島衆議院議員も大変興味を示されまして、橋本さん、村山さんと一緒に説明をしに議員会館まで行ったこともございます。3つ目は、防災備品の整備を検討ということで、何が



必要かというのを勉強していこうということです。

穂苅サブリーダー:昨年入会したばかりでございますが、奉仕ということを正面から取り組むことを新鮮な思いでおりまして、諸先輩方に教わりながらやっついこうと思っている次第でございます。今年も例年同様、芝商業高校へインターンシップの協力をするということになりました。これまでに10会員会社から47名の受入をとという温かい申し出を頂戴しております。4人に1人が受け入れてくださっていることとなります。大変ありがたいことだと思っております。このように諸先輩に教えて頂きながら、奉仕活動を体験しているところなんです。ありがとうございました。

大日方:地区の社会奉仕の委員長をしております。社会奉仕はロータリーの原点である。地域社会に貢献する、コミュニティサービスであります。これがあまりできていないことに危惧しています。ポリオプラス、マッチンググラント、米山、インターンシップといった組織的なことが多くなり、忙しくなっているため、そちらに労力もお金もいってしまっているため、地域社会に貢献するということへ手が回らなくなってしまっています。地域社会に貢献するということは、こちらから困っていることに手を差し延べることがスタートですが、地域の皆さんが困っていることがあつたらロータリーへ相談しようということになると双方向になりまして、クラブが地域へ密着することになります。地域の住民からロータリーに相談するということは、ほとんどありません。だからロータリーが地区にほとんど存在していないところを強調したいと思っております。もっと単純にいうと、駆け込み寺です。ロータリーは、専門家が沢山いるし、行政やマスコミ、ボランティアにも声がかけられるという組織ですが、住民のほうはそうは見えていない。これを何とかしたいと思っており、社会奉仕委員会では、この1年間これを PR していきたいと思っております。

開発:昨年度入ったばかりの新会員でございます。大日方さんからお話がありました地域の活動は難しいと実感しています。私は会社も自宅も赤坂で、町内会にも入っているのですが、盛り立てるのがなかなか大変です。若手が集まりまして、お祭りに参加したり模擬店を出したりと協力しておりますが、地域の活性化は難しいです。特に赤坂はあまり人が住んでおらず、人が集まってきてくれないです。私の友人も赤坂に住んでおり、子供がおりますが、3クラスくらいしかなく、運動会といっても全部で10クラスくらいしかない地域です。隣に誰が住んでいるのかもわからない地域です。ので、そういったものを活性化できるプランがあれば

ばな、と思っております。

西澤：我がクラブは一番の問題がクラブ財政ですが、奉仕はやらなくてははいけないし、やっていきたいと思う。コミュニティサービスも非常に大事だと思います。大日方さんがおっしゃった駆け込み寺のようなもの、というのはどうしたらいいか、と考えました。私は、1年半位まえから「ローマの市場にて」という勉強会をやっています。オープンイノベーションフォーラムとっておりますが、古代ローマの広場で世界中から老若男女関係なく集まりしゃべるということをイメージしております。今1ヶ月に1度開催しておりますが、最初は20~30名ではじめましたが今は800名近くになっております。毎回先着順70名くらいでやっておりますが、しゃべりたいという人が集まってくる。結局プラットフォームを作っているのだろうな、と思っております。先ほどの大日方さんのお話や、皆さんの話を伺っていて、もっとプラットフォーム的になれば人が集まるのかな、と思いました。財政が厳しい中での奉仕活動というのを考えましたところ、やはり会員増強が必要だと思いました。一人ずつの労働が高まらないように均等化することが一つです。自分の赤坂RCだけでやらなくてははいけないのかと思っておりますが、高須さんがおっしゃられたように、他のクラブ、他の組織と合同のプロジェクトというのをのびのびとやっていったらどうかと感じました。

村山：当クラブの社会奉仕の歴史を見ると、メインとなっていたのが盲導犬の支援、福祉関係の泉の家への寄付、今も続いておりますが車イスボランティアです。去年の震災をきっかけに様変わりしてきました、国際的な奉仕もありやってきてなかったのですが、現在公山城RCのお付き合いから国際奉仕の活動も出てきました。浅川さんがおっしゃっておられたのは職業奉仕のことだと思いますが、伝統的に、ガバナー補佐訪問のクラブ協議会では職業奉仕について取り上げられてきました。職業奉仕は社会奉仕と裏腹で、職業奉仕をやるのが本来のクラブの目的で、社会奉仕は本筋ではないのではという議論が続いており、当クラブは割りともとに取り合ってきており、これが25年の歴史でした。CLPが出てきてから、小さいクラブでは3大奉仕、4大奉仕をわけてやる必要はない、奉仕プロジェクトという1つの委員会でウエイトをつけながらやったほうがいいのか、それは良いことだなと思っております。クラブを25年やってきましたが、奉仕のありかたについて曲がり角にきており、考えて舵をきっていく時期にきているように思います。大日方さんが先ほどからおっしゃっている地域密着の奉仕があるかと思いますが、私のように職場も住居も赤坂ではなく、クラブの所属が赤坂RCという場合は、地域密着というのは肌で感じられず、これは都市型のクラブの特徴ではないかと思っております。しかしながら、我がクラブが、先進的に解決していけば、他のクラブの参考になるのではないかと思っております。

浅川ガバナー補佐：本日のクラブ協議会は、田村さんの根回しもあったのではないかと思います。皆様は熱心で、そのご努力を嬉しく思っております。職業奉仕

については歴史的な流れの中で考えていかななくてはならないと思っております。歴史的な背景を整理して今の職業奉仕を話さなくてはならないと思いますが、いずれにせよ結論でない難しいテーマだと思います。ガバナーも職業奉仕についても源点にかえってやらなければと話しております。それから、インターンシップについて大変なご協力いただき、ありがとうございます。震災復興支援については、おっしゃっていただきましたが長く時間をかけて支援をしていかななくてはなりませんから、クラブ単位だけではなく、きっかけをつくり他の団体とも協力してやっていくことも視野に入れていくことも大切だと思います。地域社会の貢献についてですが、地方ではちょっとした奉仕活動でも地方紙にロータリーの写真を大きく掲載していただけますが、千代田グループでは難しいと思いますが、公募するというのも1つのヒントかなと思います。以上でございます。本日は本当にありがとうございました。

清水：浅川ガバナー補佐、長時間にわたりありがとうございました。今回のテーマは奉仕プロジェクトということで、奉仕はロータリークラブの精神の中心です。それに真っ向から取り組んだことは、大胆なことだったのかもしれませんが、ですから消化不良のところもあると思いますが、ここで真面目に議論されたことを欠席の方に会報等で伝えて、あとは実践に移して行くことが大切だと思います。地域の問題がありましたが、駆け込み寺的なお話は積極的に取り組んでいければと思います。今日話されたことを行動に移すことをやっていければと思います。本日はありがとうございました。(完)

10月 職業奉仕月間

「職業奉仕」という言葉は耳慣れないと思いますが、ロータリアンたちが一番大切にしていること、それが「職業奉仕」です。

ロータリークラブは、企業経営者、専門職といった職業人の集まりです。会員は、それぞれの職業を代表してクラブに入会します。したがって、会員候補者は、その時点で既にその職業において高い見識と業績を積み上げてきていますが、そういった人々が集まって切磋琢磨し、さらに職業倫理の向上に努める、というのが、ロータリーにおいての職業奉仕の基本です。

また、自らの企業や専門職に関しての知識や技術の向上と発展、顧客満足、従業員やその家族に対する責任、社会に対する責任など、例会をはじめとするさまざまな会合ならびに奉仕活動を通して互いに学び合い、自らの職業において実践すること、これも職業奉仕です。

「四つのテスト」は、ハーバート・テラーというアメリカのロータリアンが、ある企業の再建を引き受けたときに考えた企業の倫理的指針です。彼は、これによって見事にその企業の再建を果たしました。それ以来、ロータリアンたちに職業倫理の指針として広く愛用されています。

さらに、職業奉仕には、自らの職業や職業における専門知識を通して、地域社会や国際社会に貢献するという考えも含まれています。